海気通信
Kaiki News

発行

千葉市民ギャラリー・いなげ
〒263-0034
千葉市稲毛区稲毛1-8-35
TEL: 043-248-8723
FAX: 043-242-0729
http://business4.plala.or.jp/g-inage/

3号
2013／11／1

旧神谷伝兵衛稲毛別荘の知られざる話

千葉市民ギャラリー・いなげの敷地内に建つ旧神谷別邸に、初代・神谷伝兵衛が過ごしたのはわずか4年間。その後も、様々な人が過ごしたこの洋館の秘密が、当人やそのご親戚、近隣に住む方のお話から次第に分かってきました。

これまであまり知られていなかった別荘にまつわるお話をほんの少し紹介します。

清朝皇帝の妹も住んだ幻の和館

和館の間取り

昭和16～17年頃、愛親覚羅溥儀（中国清朝最後の皇帝）の妹 韞嫻（うんかん）さんと韞馨（うんけい）さん、それぞれの旦那さんと子どもがこの別荘で暮らしていました。別荘が建てられた当時、ゲストハウスとして使われた洋館のとなりには、生活のための和風の木造家屋も建っていました。今はありませんが、当時の写真にほんの一部だけ写っています。右の写真では、韞嫻さん（写真右）、韞馨さん（写真左）たちが和館の縁側に座っており、ガラス戸の向こう側には洋館の柱とアーチがほんの少し見えます。縁側に囲まれた和館は1階建で、6つの部屋と風呂・トイレ・台所がありました。

アメリカの将校一家と洋館増築

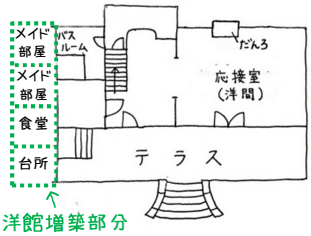
昭和20～25年になると、洋館にはアメリカ軍の一家が住み始めました。

当時、となりの和館には神谷伝兵衛の孫にあたる田島栄子さん一家が住んでおり、お互いに少しばかり交流があったそうです。右の写真は田島家三女の睦子さんと将校の子どもが洋館前でプール遊びをしている様子です。この頃の洋館は、炊事などができるようにと、一階にキッチンと食堂、メイド部屋2室を増築していたようです。

現在の管理人室とつながっていたようですが、今は建てられた当時の間取りに戻っています。

（田島栄子さんのお子さん 靖子さんと睦子さんのお話）

睦子さんの後ろに見えるのが洋館の食堂とキッチン

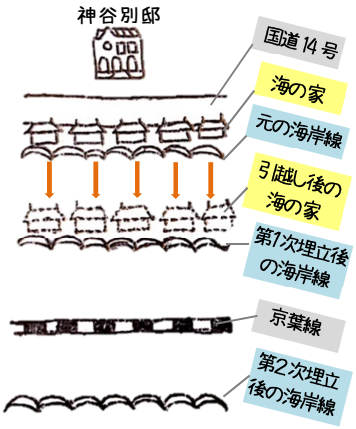


イナゲスクープ

稲毛海岸前の海の家が埋立後に大移動!?

現在の国道14号が海岸線で、海の家がたくさん並んでいたことは知られていますが、埋立後もいくつかの海の家が営業されていたのをご存知でしょうか？「海の家」なのに海沿いにないのはおかしい」と思われるかもしれません……が、なんと多くの海の家は、埋立後の海岸線沿いに引っ越していたのです！

海岸線と海の家の移動



稲毛海岸の埋立が行われたのは昭和36年。沖合約1km先が海岸線となりました。これに合わせて海の家の多くが新しい海岸線沿いに引っ越し、営業を続けていました。その後、2回目の埋立工事が行われ、国道14号から約3km先が海岸線となります。この時、いくつかの海の家は、第一次埋立後の旧海岸線沿いで、食堂として、最近まで営業を続けていました。お店の中の様子はというと、入ってすぐ一段高いゴザの敷かれたお座敷が広がっており、昼食後のお客さんが横になっている光景も見られたそうです。海はなくとも、中に入ればそこは懐かしい海の家。現在、同じ場所で営業を続けているお店はなくなってしまいました。

ウワサの真相!?

早朝に提灯を持って歩く人の行列を追え！！

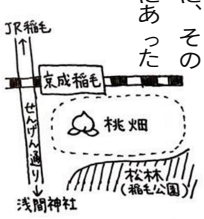
8月半ばの早朝、京成稲毛駅付近で提灯を灯した人の行列を発見。お盆の時期とはいえ、大勢で歩く様子に驚き、その真相を探るべく、稲毛せんげん通り商店街の老舗のお茶屋さん「稲毛園」の海宝さんに話を伺いました。

お盆には迎え火・送り火という、提灯を持ってご先祖様をお墓に送り迎えする行事があります。稲毛では、迎え火の翌日にご先祖様が神様のところにあいさつ回りをするとされ、その時に持たせる神様へのお土産（細かく切ったキュウリとナス・米を混ぜたもの）をお墓にお供えするそうです。その際、稲毛の人たちは、子孫の途絶えてしまったご先祖様の分も持っていってあげようという意味で、迎え火の翌朝早くに地域の皆がそろってお墓に向かうようになったのだそうです。

他にも、お盆にまつわる稲毛地域の風習があります。ご先祖様が神様への挨拶回りから帰って来る日、暑い中お疲れ様というねぎらいの気持ちを込めて、自宅でそうめんを食べるのだそうです。

いなげ幻の土地を訪ねて

稲毛の桃畑

稲毛の夏の一大行事「浅間神社大祭」の屋台には毎年「稲毛饅頭」という小麦でつくったお饅頭が並びますが、昔は少し様子が違ったようです。稲毛饅頭は、お祭り前に近所への挨拶回りの時に配り、祭り当日の屋台には邪気払い・不老長寿の果物「桃」が並だそうです。驚くことに、その桃は京成稲毛駅と松林の間にあった桃畑でとれたとのこと！

今でも「桃畑の○○さん」という屋号が残っています。